

船橋市環境基本計画の中間見直しに関するご意見のとりまとめ

資料3

令和7年度末に予定しております第3次船橋市環境基本計画の中間見直しについて、令和6年10月28日に開催しました令和6年度第1回船橋市環境審議会においてご説明させていただき、実施内容（①個別施策の追加、削除等、②進行管理指標の数値目標の見直し等）についてご了承いただいたところです。中間見直しの実施に当たって、審議会委員皆様からいただいたご意見を下記のとおりとりまとめました。

今後、皆様からのご意見を踏まえながら、各施策担当課と調整を行います。令和7年10月にその調整結果のご報告を行い、その後見直し案を作成し令和8年3月に諮問を行わせていただく予定です。

問1 環境基本計画は個別施策（施策数265）を元とした施策ごとに進捗を報告しております。中間見直しでは、個別施策の追加、削除、統合、表現の変更等を予定しておりますが、現在の個別施策の数についてどう思われますか。

1. 多い 2人 2. ちょうどよい 3人 3. 少ない 0人

問2 個別施策について見直しをした方が良いものがありましたら、具体的な内容とその理由についてご記入ください。

具体的な内容	その理由
全般的に、固有名詞の表記に関し、現在の実態に合わせ、見直し・修正する。 ・ 施策番号2：クールチョイス → デコ活 ・ 施策番号5：船橋市地球温暖化対策地域協議会 → 船橋市ゼロカーボンシティ推進地域 協議会（愛称ふなエコ） ・ 施策番号136 & 137：プラスチック・スマート → 分かりやすく、注記追加する。 ・ 施策番号222：（仮称）ふなばしエコカレッジ → （仮称）削除	・ 当時の新・国民運動“クールチョイス（賢い選択）”は、現在、新・国民運動“デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）”に吸収・展開されている。（環境省HP） ・ 環境省HP “プラスチックとの賢い付き合い方” ・ 正式発足

具体的な内容	その理由
施策番号19 & 20 の表記を同一にする。 施策番号 1 9：感染症の予防に向けた情報提供 施策番号 2 0：熱中症患者の発生状況の把握と予防に向けた情報提供、注意喚起、普及啓発	コロナウイルス感染症の発生により。同一レベルでの施策を検討する。
施策番号136 & 137 プラスチック・スマート個別施策の統一	プラスチック・スマート として統一する。
資一69 施策番号72 民間建築物等における屋上・壁面緑化の誘導 工場の環境施設面積比率の向上への依頼	工場内での緑地率向上が緑化推進の期待度が高い。
施策番号9 エコノート普及事業の促進等	企業では温対法などの関係でこうした数字は取っているが、各家庭でこのノートを継続してつける(実践率を向上させる)には、動機付けを工夫する必要があるのではないか。昔、夏休みのラジオ体操を皆勤すると景品が貰えたような仕組み。
施策番号26 電気自動車、燃料電池自動車などの普及促進	欧州でも電気自動車一辺倒の政策が見直されつつあると報道されている。個人で電気自動車を購入するには条件がある。またガソリン車と比較して製造段階からのライフサイクルでCO2削減量を比較した場合、電気自動車の優位性が出るまでには相当期間の長期使用が前提となるという報道もあることから、電気自動車の利用促進は状況を精査する方が良いのではないか。(将来的には課題は解決されていくであろうことから、あくまでも現時点での状況を確認してメリットデメリットを判断するのが良いのではないか)
施策番号59 市民ニーズを踏まえた身近な公園づくり 施策番号64 新たな特色ある公園等の整備検討	施策の違いが分かりにくい。重なる部分も多いのではないかとと思われる。

具体的な内容	その理由
施策番号113 地場産品(農産物・水産物)のしくみづくりと推進 施策番号114 地産地消に向けた意識啓発	所管課が113農水産課と商工振興課で114消費生活センターとなっていますが、関連した取り組みであると思いますので、所管が分かれているより、共同の方が良いのでは。昨年11月の地域工業団体連合会の研修・交流会では商工振興課の方が水産物のコノシロをアピールされていてこうした取り組みを知ることが出来ましたので、連携すればもっと良くなると思います。
ご質問の対象個別施策は無し。	多岐にわたる所管部署の個別施策を俯瞰したところ全体として過不足なく現状を踏まえて施策が作られていると思った。 推進方法等については問4欄に記す。
施策番号11 温室効果ガスの吸収源対策で海洋の吸収促進として三番瀬の藻場再生活動促進	森のCO2吸収促進も大切であるが、船橋是三番瀬という広い干潟があり昔はアマモ・コアマモや多様な藻が生息しており、CO2の吸収に役立っており、その生態系も豊かで特に底生生物のCO2固定はグリーンカーボンとして環境省でもみなおされている。

問3 進行管理指標について見直しをした方が良いものがありましたら、具体的な内容とその理由についてご記入ください。

具体的な内容	その理由
基本施策①地球温暖化対策の総合的な推進に熱中症同様、感染症に関する状態指標&目標指標を追加する。	コロナウイルス感染症の発生を踏まえ、感染症に関しても、状態指標&目標指標を検討し追加する。
状態指標：番号16：リサイクル率の定義、算出方法を教えて下さい。	
目標指標全般について、当初、数値目標・設定困難なため、目標指標 を設定しなかった項目が結構あるが、現状見直し、設定を検討する。	例えば、目標指標・番号25：廃プラスチック対策の推進における、海洋プラスチックごみについて、目標指標の設定は出来ないでしょうか。（船橋市と連携協定を結んでいる日大・生産工学部の調査が進んできている）

具体的な内容	その理由
目標指標③創エネルギーの推進・再生可能エネルギーの導入推進に、公共施設（小中学校・公民館等）への太陽エネルギー利用設備の設置を追加する。	公共施設（小中学校・公民館等）への太陽光発電パネルの設置が具体的に進められ、目標指標として、分かりやすく市民への説得力があると思う。
目標指標：番号23：「ふなR連携事業者」数の目標値を更にアップ修正しては、どうでしょうか。	種々活動により、大きく効果が出ていると思います。更なる上位目標設定しては、いかがでしょうか。
質問：目標指標：番号43：校外学習での教育施設の使用率は、小1～小6までの1学年でも利用すれば、学校として、使用カウントされるのでしょうか。	
目標指標：番号50：ふなばしエコカレッジ卒業後の体験入団数 → 卒業生の環境保全活動の実施率が適切かと思います。	卒業後、実際に環境保全活動を実施しているかどうかを、指標とした方が良い。
②省エネルギーの推進 6一世帯当たりの都市ガス使用量	夏季の猛暑と暑さと気温の高い状態が長引くことに加え、冬季の暖冬傾向で、ガスの消費量は減少していると聞いています。 各家庭での省エネルギーの取り組みを図るのであれば、(減少分を計測可能であればという条件付きですが)環境変化による自然減の分を修正した目標にした方が良いのではないかと。
⑬船橋の環境を担う「ひと」づくり 44 (仮称)船橋エコカレッジ卒業生数	資-75の表ではまだ(仮称)エコカレッジとなっていますので、次年度には4期目を迎えますから、この機会に仮称を取った方が良いと思います。 講師の方の都合もあるのでやむを得ないとは思いますが、このスケジュールで平日開催では参加可能な方は少ないか、属性が偏るのではないのでしょうか。 アンケートによると環境問題に関心がある方も多いようですから、年1くらいで特別講座を設けるのも検討してみてはいかがでしょうか。

具体的な内容	その理由
ご質問の対象進行管理指標は無し。 各項目共通の計画目標年度（R12）の目標値について右記します。	例えば 5. 一世帯当たりの電力使用量2,606kWh 8. 市内における再生可能エネルギー設置容量 97,110kW等他多項目の目標値について、具体的な対策に基づくのか不明で評価できない。備考欄に記すべきでは？ また一例として 1 8. ごみ総排出量185,106tは有効数字 6 桁の信頼性が有る実現の可能性の高い熟考された具体策に基づくものか、単なる何%/年削減と仮定しての計算結果なのか、後者なら表記はせいぜい185,000 t でしょう。 見直しに当たっては、各担当課は各項目毎に具体策の真剣な吟味を更に積み重ねて頂きたい。ただし、私は状況をよく理解していないので、ピント外れな意見でしたらお許しを。
状態指標 4 熱中症搬送車数 計画目標年度（R12年度） 50%	現在熱中症対策において防止の注意喚起はかなり浸透しており、その予防グッズも安くて良いものが市販されている。5年後には少なくとも半減させる。

問 4 その他中間見直しに関するご意見がありましたらご記入ください。

各施策の進行について、内容によって法規制（例：条例の制定）に向けた検討が議論されてもいいと思っています。

環境基本計画のコラム欄は、分かりやすく、理解する上で有効だと思います。見直し時に、持続可能な社会を目指す上で、世界の動向等について、何点か追加検討しては、どうでしょうか。例えば…

* 日本：第 6 次環境基本計画から自然再興（ネイチャー・ポジティブ）、炭素中立（カーボン・ニュートラル）、循環経済（サーキュラー・エコノミー）の統合 ➡ 持続可能な地域と暮らしの実現（ウェルビーイング）を盛り込んだコラム欄の作成

* 気候変動と生物多様性館の相互影響（コベネフィット）:別問題ではなく、相互に影響し合う気候変動（IPCC/AR6）生物多様性（IPBES）具体例を示し、分かりやすいコラム欄の作成

* 気候変動（IPCC）と SDGs 各目標間の、シナジーとトレードオフについて分かりやすく解説したコラム欄・作成（IPCC/AR6 統合報告書・参照）

問1に関して

委員としては初年度を務め、限られた時間の中で初めて目にする資料を見ながら項目を検討していて多いと感じたという、個人的な感覚であり、具体的に無駄な項目があるということではありません。ただ評価がC以下のものに限ってもすべての項目を審議会で討議する時間は無いでしょうか、意見交換をどうするかは課題だと思います。

問2、問3で記載した以外の点について。

クリーン船橋530の日に関して。地元の自治会で何度か参加しましたが、印象として自治会活動が低迷していることも参加者が伸びない理由としてあるのかなという気もしています。

因みにですが、530の参加者数に連合千葉の参加者数は入っていますか。

都内勤務の頃、連合東京の地域協議会経由で参加要請がありましたので、そちらで労組として530運動に参加しておりました。今は組合員ではないのですが連合千葉でも同様の取り組みはしていると思うのですが、どうでしょうか。

『令和5年度船橋市環境基本計画 個別施策の取組結果及び令和6年度の目標一覧』において、施策の評価「C」で、施策展開上の課題「特になし」の項目について。

評価に対するコメントでC評価とした理由が記載されており、概ね目標が達成されていることがわかるものは良いが、個別施策番号130と132については、Cは一部改善の余地があるという評価なので、課題が特になしで良いのか疑問が残るところです。

審議会全体を通して

これは批判と捉えられると困るのですが、審議会で委員の方の中でも普段から熱心に活動されているのだと理解していますが、特定の範囲で審議が集中し、発言の機会がない委員もいらっしゃるので、広く有識者や団体代表者の意見を聞くということになっていないように感じられるところがあります。もちろん、異議はないので反対意見があるということではありません。

議長も時間内で質疑を完結しないといけないということもありますので、問いには答えなければならない訳ですが、議長も一呼吸入れられるように事務局の方でテンポを変えるというか、他の委員の発言を促すような流れの変化をつけた方が、他の委員も発言しやすいのではないかと思う次第です。

私自身も、もう少し参加すべきだなと反省するところでもあります。

環境に関しては分野が広く委員の方も得意不得意が有ると思われる。

得意分野別のグループとして重点的な取り組み4グループに分けグループごとに検討して纏めてはどうか。

この方が効率的にきめ細かく検討できる。

グループごとに集まると委員の繋がりも強く成り意見の交換によるコミュニケーションが良くなる。

市の環境基本計画それに基づいた中間見直しはこれまで作り上げて来た構成に拠るので、今後この大枠はこの軌道にのせて行くのが良いと思います。

私はそれに加えて、市もこれまでも十分配慮されてきてはいますが更に、下記の視点からの実際の行動の見直しも加えていったらどうかと思います。

市が働きかけて環境を実際に良くしていける分野・施策は、市関連事項は当然ですが、一般市民関連事項だと思います。企業や組織関連事項は、現在の環境問題への取り組みは極端な言い方になりますが、市等他からの指図や教導により左右されるものではなく、多くは各々自分自身の近い将来の死活問題としての今取り組んでいる最大の課題でしょう。

従って市が只今力を入れて取り組む環境問題への取り組む姿勢は、一般市民一人一人に「そうだなー、私も出来ることからやろう。」と思ってもらい、動き出してもらう事に対し、毎年度最重点的に注力していくことを考え、評価し改善を加えていくことだと考えます。

令和5年度年次報告書でも一般市民関連事項の評価が全体的に低いように思えます。多くの施策を一律に評価するのではなく、一般市民一人一人に向けた施策に重点を置き全力を傾注して見直し、改善、推進をしていく重点的取り組みが有ってもいいのではと思いました。

その効果も、先の1970年代のオイルショック時とは異なり、一般市民一人一人では僅かでも六十余万人の全船橋市民による総計は大変大きなものとなることでしょう。

私達審議委員も市役所の職員の方も市役所の建物を出れば一市民で部屋の電気や風呂の使い方等で環境に関わっています。「そうだなー、私も出来ることからやろう。」と思えばやることはかなりあります。そして動き出せば市民六十余万人の成果は環境改善に大いに資することになります。さらにはエネルギー関連価格の高騰の今は市民自身の利益も大きいと思えます。

一般市民に対し市は、これまでも努力されてきていますが、さらに重点を市民に移して取り組んでいけたら良いなと思います。

具体的には、環境基本計画の中間見直しや年次報告書等にも、もっと高齢者から子供までいろんな市民が取っ付きや易い去年の反省と今年の取り組みをどうアピールするか、難しいですがもう一本腰を入れ直して取り組むことは如何かと愚考します。